

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170700167		
法人名	有限会社 さわやか門前		
事業所名	グループホーム門前		
所在地	佐賀県鹿島市古枝1650番地		
自己評価作成日	令和元年 1月 25日	評価結果市町村受理日	令和2年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和2年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人一人がゆったり、楽しく、穏やかに生活されるように、相手の気持ちを良く聴いて支援している○月に一度のピクニック(鹿島伝承芸能祭、嬉茶楽館茶揉み体験、武雄ゆめタウン、旭丘公園花見、庭木ダムの桜、大村花菖蒲園、祐徳神社日本庭園など)に出かけている。○地域の方との「認知症サポーター養成講座」を開催。○作品展作品作り、毎日の体操、計算ドリル、漢字ドリルなどの日中活動。○一月ごとの写真入り入居者個人おたより。○祐徳民謡会や尺八、オカリナ、カラオケ同好会の方とのレクを楽しまれる。○年に一回の落語会で地域の皆さんと共に楽しんでいる。○隣保班や地域消防団との避難訓練の実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、祐徳神社の門前に位置し、観光地として、商店が立ち並び賑わいがある。昔から地域の方が利用していた医院を改築したホームである為、地域の方との関係も長い年月をかけて築かれており、ホーム職員も「認知症サポーター養成講座」を開催したり積極的な活動をし、地域の一員として役割を持たれている。ホーム内は、一つひとつの部屋の広さ、つくりが違ふ為、使用しやすいように工夫され、入居者一人ひとりの好みに合わせた部屋作りで、居心地よく温かく感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく所への理念の掲示、毎月のミーティング、日々の申し送り等での確認を続けている。また、職員間でも理念の実践につながるよう声をかけあっている。	長年親しんだ理念を、いつも目の届く場所に掲示し、ミーティング時や申し送り時には再確認し実践に繋げられるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩での挨拶や何気ない会話を大切にしている。 地域の催しへの参加や回覧板の一員に入り情報共有することで、地域とのコミュニケーションを図っている。	地域の行事には積極的に参加しており、長年培われた良好な関係が築かれている。日々の散歩やホームでの取り組みに参加して頂いたり、日常的に交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を地域で開催したり、地域の人々を交えての避難訓練の際など、折りに触れて認知症について話すようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、互いに現況報告している。課題等を多角的にみることができ、サービス向上に活かせるよい機会となっている。	2ヶ月に1度開催され、行政、区長、民生員、消防団、家族の参加があり、会議内容も多様で、報告や相談等も活発に行われサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係構築には顔を合わせて話をすることを大切にしている。認知症サポーター養成講座の共催、運営推進会議への参加要請、市包括支援センター主催徘徊見守り訓練への協働を継続している。	認知症サポーター養成研修や包括支援センター主催の徘徊見守り訓練への協力も行っている。日ごろから密に連絡を取り協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングの場で身体拘束の有無を確認している。また、外部研修などで知り得たことを職員間で共有し実践に繋げている。2カ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催している。	身体拘束は行っておらず、日ごろから研修へ参加し、研修内容については、運営推進会議で報告したり、ミーティングの時に職員へ伝達している。身体拘束しないケアについて理解を深め実践できるよう努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等で学んだことを毎月のミーティングや日々の申し送りなどで共有しながら、職員各々が日頃の言動を振り返り、また互いに注意し合うことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり、家族会や運営推進会議でも学ぶ機会をつくり、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っているつもりだが、足りないところは再度話したり、改定があった時はレジメを作って理解していただけるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、受診時や利用料を払いに来られた時に家族の意見を聞いたり、運営推進会議でも意見を聞いている。その意見はミーティングなどで職員に伝え運営に反映させるよう努めている。	毎月家族へ、近況報告をお便りで発信し、意見や要望は、面会時等を利用して話しやすい雰囲気を作るように努められている。寄せられた意見や要望は、その都度話し合い運営に反映できるように取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい関係づくり、職員の意見や提案を聞いた際は代表者につなげるよう努めている。	ミーティングの時や申し送り時に意見や提案を聞いたり、個別に意見がある時も、その都度、代表者に伝え迅速に反映できるように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が個性があり、良い面がますます伸び、自信を持って働けるよう努めている。各職員の家庭の事情を考慮し、希望休など出来るだけ取れるように職員配置をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がいろいろな研修に行けるように、個別の年間計画を作成し各種の研修にバランスよく参加されるようにしている。研修後はミーティング等で報告し実践に生かしている。また補助も出し資格取得を促進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿島・太良・塩田のグループホームと毎月交流会で、勉強会に参加し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は特に密に関わるよう心がけている。警戒心をもたれないよう、普段の何気ない会話や関わりの中から情報を得るよう努め、関係構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに関する直接的な表現は避け、何気ない会話の中から困りごと、不安なこと、要望などを探るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り必要とされている支援が提供できるよう、他職種への相談などしながら、多職種協働を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる能力の維持支援を一番に考える。人生の経験者として学ばせてもらう場面を大事にしている。本人の得意とする分野を教わるなど。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に近況報告するなどして情報を共有し、共に支えていると感じてもらえるような働きかけをしている。家族あつての本人ということを常々伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にゆっくりと話ができるような場所の提供、馴染みの場所へ出かけるなどしている。	自宅周辺に出向いたり、みかん畑や近隣の商店へ行って懐かしむ機会を設けたり、馴染みの場所との関係が途切れないように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂や出かける際の車内の席の配置などを考え、交流の機会となるよう工夫している。また、交流の場で楽しめるよう、職員も一緒になって孤立されないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移られた先の病院や施設への面会、必要に応じて情報提供する等、フォローができるような取り組みをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での言動から思いや意向をくみ取ることに重点を置いていることは変わらない。意向の把握をしているつもりだが、情報共有し全職員把握し支援に繋げていけるよう努めていかなければならないと考える。	一人ひとりの生活歴を理解した上で、日常生活の中で思いをくみ取るように努められている。職員間でも情報共有し支援につなげられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等、担当ケアマネ、医療チームなど、本人に関わる様々な人達と関係し情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り、ミーティングなどで情報共有している。また、家族からの気づきなどを聞き、最新の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一堂に揃って話し合う場面が作りにくいこともあり、それぞれに意見をきき、ミーティングの場で職員間での共有を図っている。また、日頃から職員から意見を聞き、介護計画に反映させている。	本人や家族の意向を聞き、かかりつけ医の意見も反映されており、現状に即した介護計画が作成されている。定期的に評価を行い見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫が記録に残ることが増えてきており、介護計画の見直しに活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対する柔軟な対応ができるよう努めているが、家族や職員との話し合いがもっと必要だと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時は隣保班や消防団の方に来ていただいたり、民謡会や尺八オカリナ、カラオケ同好会などの慰問があった時は浜のG Hへでかけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々人のかかりつけ医を継続してもらっている。定期受診は家族対応をお願いしており、必要に応じて同行したり、受診代行をしている。	かかりつけ医は継続でき、協力医との連携もできている。必要時は、本人、家族が受診している時に職員が同行し、医師から直接相談や指示が受けられ、迅速に支援につなげられるように取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師やかかりつけの外来看護師などに電話などでの相談が常時できる環境にあり、早期対応に努めることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などサマリーを早急に準備し情報提供に努めている。病院に出向いて医師や看護師、地域医療連携室との関係づくりにも努め、話し合う場を多く持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師を含むチームでどのようなことができるかを本人、家族に十分に説明しながら方向性を考えていっている。	入居時に書面で重度化については説明を行っている。ホームでの対応については、本人・家族の意向や医師の意見を聞き、その都度できる事を説明しながら支援されている。終末期については、研修に参加し職員全体で研鑽していくように取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ファーストエイド、AED講習を消防署に依頼し、地域の方と一緒に、またそれ以外にも年1回以上全職員が訓練を受けることができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害想定避難訓練を隣保班、消防団、消防署、公民館などの協力を得て定期的実施している。非常食を用いたの実践も継続している。	年2回消防団、隣保班との協力のもと訓練を行っている。毎月1回入居者と避難経路の確認を行っており意識付けがなされている。その他の災害についても避難場所の確認が行われ、職員全員が避難方法を身につけられるように努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格を把握し、好まれる言葉かけや対応を心掛けているが、口調が強くなる時がある。	職員の言葉使いや口調が強くなる場合は、職員間で注意をしながら対応している。トイレの扉がカーテンである個所があり、プライバシーを損ねないように配慮するよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での抑制に注意しながら、簡単な質問形式にするなど思いや希望を表出しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな生活サイクルの中で、個々人に合わせた対応をしているが、時々業務に追われ職員優先にしてしまっている時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪された時、おしゃれをされた時など声かけをしている。また、服選びを一緒に行ったり、化粧を促すような声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し代替することがある。台拭きや下膳などできることを一緒にしている。盛り付けや味見をするなど、準備の段階から食事を楽しんでもらえるよう考えている。	食事は、朝食以外は、系列事業所より取り寄せており、入居者の意向や嗜好を反映させている。また、盛り付けや準備、味見等は、入居者も一緒に行われ、食事を楽しむ機会づくりに努められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を記録で把握しながら、個々人にあった形態など工夫している。また、その情報共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でされる方への声かけ誘導、介助を要する方へは状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報共有しながら、排泄パターンを把握し、できる能力を最大限活かしてもらえよう支援、介入している。	排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように言葉かけや対応を工夫し、自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動などを工夫して自然排便をできる限り促すよう努めている。必要に応じて、医師や看護師に相談し下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り希望やタイミングに合わせて、入浴の準備をしている。状態に合わせて、リフト浴や部分浴の対応もしている。	一人ひとりゆっくり入浴ができ、個々に浴った支援がなされている。また、入浴剤を入れ香りを楽しむなどされている。リフトも設置され、状態に合わせた入浴ができるように設備も整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間問わず、室温調整や寝具調整など、快適な環境を考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はタブレット記録内、個人の薬入れに入れておきすぐに確認できる状態にしている。服薬時の名前の確認、服薬確認はできているが、薬に関する理解は完全とは言いきれない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを役割として担ってもらったり、好まれることを企画したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常で収集した情報から月1回外出計画している。できる限り希望に沿った外出支援ができるよう、安全に配慮しその日出勤の職員間で話し合っている。家族等が外出に抵抗を感じられないよう支援している。	希望を聞き、その時々で散歩したりと日常的に外出支援がなされている。外出計画を立て、毎月目的に応じて、遠方等普段行けないところにも出かけられるよう支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と相談の上、所持を希望される方には柔軟に対応している。現在、所持されている方はいらっしゃいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような花、絵、置物などを一緒に飾っている。制作された作品を飾ることも。毎日の掃除や室温管理も声かけし一緒に行なっている。	ホーム内には、習字や季節を感じられる掲示物を飾ったり、食堂は日がよく当たり明るく温かく、換気もされており居心地よく過ごせる空間づくりをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では席の配置を考えたりと交流の場づくりをしている。居間は開閉自由で個人で、また他者との密な時間を過ごす場所など多様に使えるようソファやテーブルを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や趣味の道具、好みのものや写真など持参してもらうこともひとつ提案している。入居後も随時可能。	一つひとつの部屋の作りが違ふ為、その人らしい部屋づくりがなされている。今まで過ごしていた部屋とできるだけ同じようにするよう配慮し、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、必要に応じて居室の名前表示をしている。手すりを取り付け、移動の安全、転倒防止も継続している。		